



What's CCS	p1
株主の皆様へ	p3
[特集] CCSの新たな挑戦	p7
中間連結財務諸表	p9
中間個別財務諸表	p11
会社概要 / 株式の状況	p12
アンケート結果のご報告	p13

What's CCS

独自のライティング技術で LED照明の新たな可能性を拓く

生産現場の品質検査に貢献

画像処理用LED照明の国内No.1メーカー

シーシーエスの画像処理用LED照明は、さまざまな生産現場の各工程での品質検査に使用され、信頼性の高いモノづくりを支えています。

多種多様な製品ラインアップと独自のノウハウで、お客様の撮像目的や対象物の形状など、個別ニーズに合わせた最適なライティングを提案。月平均80件以上のカスタム品を生み出し、国内No.1シェアを確保しています。

撮像事例

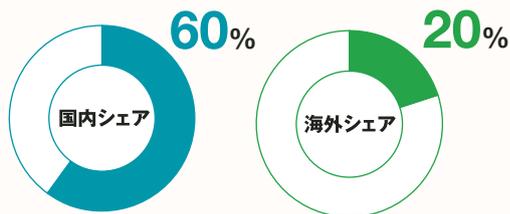


携帯電話の外観検査において、コントラストをはっきりとさせ、外観のキズ検出を容易にします。

ライティングソリューションをグローバルに展開 各地域のお客様に近いところで 最適なライティングを提案

シーシーエスはアメリカ、ベルギー、シンガポールにそれぞれ現地法人を設置し、日本・北米・欧州・アジアの世界四極体制を確立しています。独自のライティング技術を活かして、各地域のお客様のニーズに応じたライティングの提案をシーシーエスグループ全体で展開しています。

現在、画像処理用照明市場で国内60%、海外20%のシェアを獲得しています。



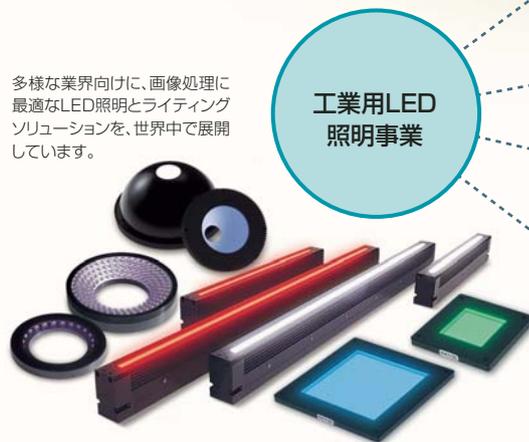
社是
お客様に愛と感謝

企業理念
光を科学し、社会に貢献する

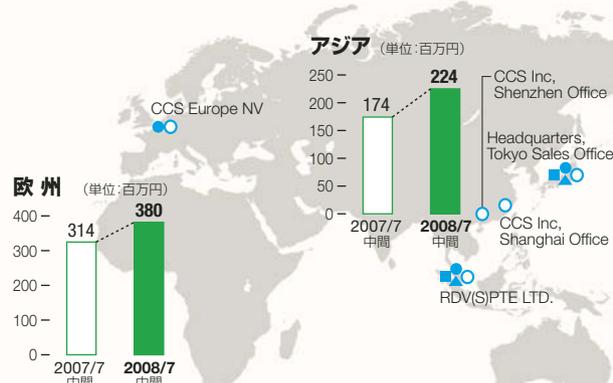
長期ビジョン
新たな光産業を創出し、
光の世界企業を目指す

◆シーシーエスの事業領域

多様な業界向けに、画像処理に最適なLED照明とライティングソリューションを、世界中で展開しています。



◆地域別売上高



新規分野をインキュベート

応用技術を確立し、新たな領域を開拓

シーシーエスは現在、画像処理用照明の開発で培った独自の集光技術や放熱技術を活かして新たな技術の確立に向けて研究開発に注力しています。

光学顕微鏡用光源としては、主要顕微鏡メーカー向けに製品の開発を進めています。また、植物育成用LED照明は、大学や官公庁の研究機関、製造業の研究所などに浸透しつつあります。

さらに医療用、商業用、民生用LED照明の商品化に向けて、開発に注力しています。またLEDの応用研究の結果得た新技術を新たな用途の照明に採用し、用途に応じた最適な照明を実現していきます。

顕微鏡用
照明分野

顕微鏡の光源として、独自の光学設計と放熱技術により光量を最大限に引き出した照明を提案しています。

バイオ分野



植物の育成に適したLED照明を提供すると同時に、LEDによる栽培技術の確立に向けて研究を進めています。

メディカル
分野

人と光の関係に着目し、LEDの特性を活かした医療機器用光源を、各分野の専門家と共同で開発しています。

商業用・民生用
照明分野

より自然の光に近い、「人にやさしい」LED照明を、店舗用スポットライトや住居用照明に応用していきます。



顕微鏡用
LEDデュアルファイバー



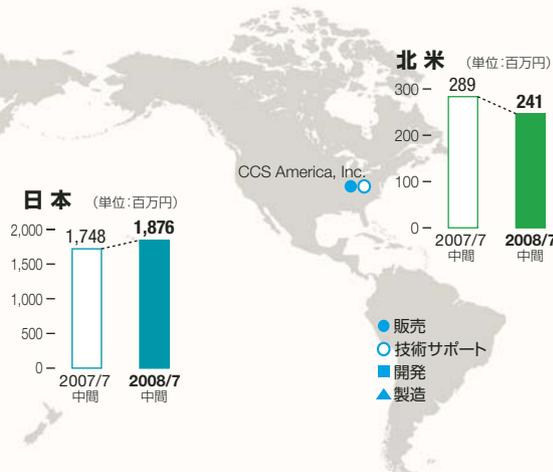
可変式LEDスポットライト(開発品)

LEDの機能、性能向上のための研究開発に取り組む

オリジナルLEDの設計・開発・生産をスタート

今期(第15期)から新たにオリジナルLEDの設計・開発を始め、試験生産を経て、来期(第16期)は量産化いたします。

山口大学との共同開発により2007年11月に実現した自然光LED™を、シーシーエスの照明に搭載し、他社にない付加価値の高い照明を提案していきます。また自然光LED™の他にも、LEDの機能・性能を向上させるための研究を進めています。





株主の皆様には
 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 また、平素は当社事業活動に対し、
 格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
 ここに第15期上半期の業績ならびに今後の
 事業戦略等につきましてご報告申し上げます。

第15期上半期の業績報告

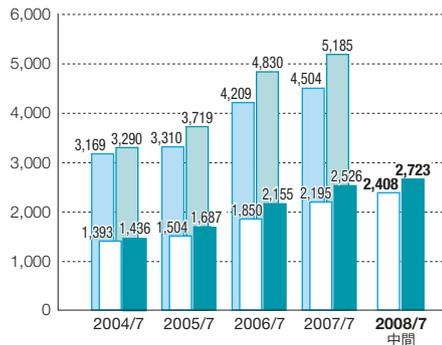
電子・半導体業界の回復の波に乗り 国内・海外におけるソリューション提案で増収増益

第15期上半期(2007年8月～2008年1月)の連結売上高は2,723百万円(前年同期比8%増)となり、その内訳は国内(工業用)が1,821百万円(前年同期比11%増)、海外(工業用)が846百万円(前年同期比9%増)、新規事業が56百万円(前年同期比47%減)となりました。また、連結経常利益は401百万円(前年同期比2%増)、連結当期純利益は261百万円(前年同期比19%増)となりました。

新規事業分野における売上高が顕微鏡用途で低迷したものの、国内(工業用)でテストングルームを中心として展開する

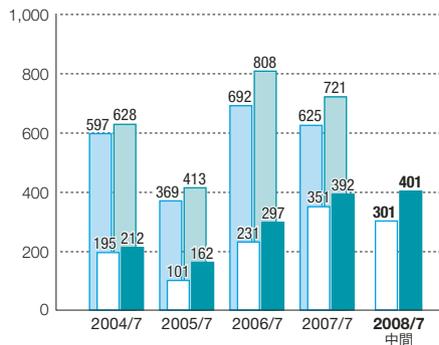
◆ 売上高

(単位:百万円)



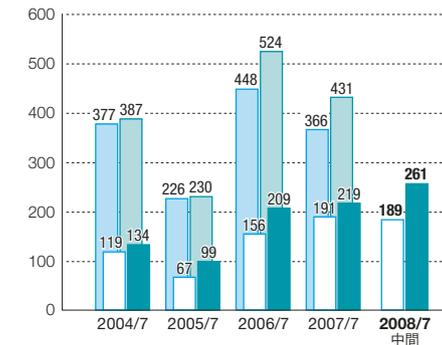
◆ 経常利益

(単位:百万円)



◆ 中間(当期)純利益

(単位:百万円)



ソリューション提案が功を奏し、大口案件が増えたこと、また、欧州でのカスタム対応の増加、アジアにおける伸びが売上に寄与し、増収となりました。利益面につきましては、製造における効率化を推進した結果、売上原価率が前年同期37.6%から当期中半期は34.5%へと改善し、原価低減策の効果が現れました。販売費および一般管理費は、オリジナルLEDの設計・開発および生産体制の確立のための費用や光技術研究所建設に伴う費用などが計上されたものの、人材確保のために見込んでいた人件費が下半期にずれこみました。その結果、経常利益は当初計画比67%増、前年同期比2%増となりました。

地域別の売上高は、日本1,877百万円(前年同期比7%増)、北米242百万円(前年同期比17%減)、欧州380百万円(前年同期比21%増)、アジア224百万円(前年同期比29%増)となりました。日本では第2四半期に入り、電子・半導体業界を中心に大口案件が増え、三品(食品・医薬品・化粧品)業界向けのフラット・ドーム照明やハイパワーライトも着実に採用が進んでいます。また欧州は、当社の主要取引先である大手電子・半導体検査装置メーカー向けを中心にソリューション提案を行った結果、売上が大きく伸びました。さらにアジアでは、中国や東南アジアを中心に販売エリアを拡大し、これまでのソリューション提案の努力が実り、売上が大きく伸びました。一方、北米はサブプライムローン問題の影響もあって苦戦しています。今後は北米におけるソリューション提案の強化と販売網の整備を進めてまいります。

第15期経営計画の進捗と成果報告

1 オリジナルLEDの開発・設計および生産体制の確立

山口大学との共同開発による
自然光LED™の量産化に向けて

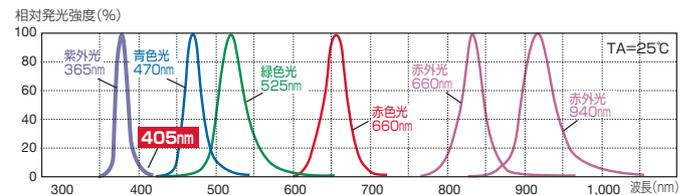
当社のオリジナルLEDとは、山口大学との共同開発によって実現した自然光LED™※1です。これはLEDの発光波長が405nm近辺※2

の紫色LEDのベアチップ(素子)と赤、緑、青の3種類の蛍光体材料(三菱化学により開発)を使用する独自の製造方法で、2007年11月に平均演色評価数※398を実現しました。当社は、このLEDを搭載した目視検査用拡大リング照明を業界で初めて試作しました。

演色評価数が100に近くなるほど演色性が高く、色の再現性が良いということで、目視検査用途のほかにも、芸術観賞用や医療用、顕微鏡用の照明としても有効です。(詳細:p8参照)

※1 自然光LED™:日本工業規格(JIS)で定める8色に関して色の再現度を示す平均演色評価数(Ra)が95以上であり、なおかつ同じく日本工業規格(JIS)で定める15色に関して特殊演色評価数(Ri, ilは1から15)が全て90以上のLEDに対し、シーシーエスが独自に定義する名称。

※2 発光波長が405nm近辺:



※3 平均演色評価数:日本工業規格(JIS)で定める8色を忠実に再現しているかを指数で表したもの。平均演色評価数100の光は、最も色の再現性が高い光ということになる。

デバイス(オリジナルLED)と照明の両方を 自社で製造することで、他社との差別化をはかる

当社はこれまで市販のデバイスを使ってLED照明を製造してきましたが、市販のものでは照明に応じた最適化に制約があり、かつ模倣品が後を絶たないという問題がありました。そこでLEDのベアチップを実装してワイヤーで配線するというデバイス製造の後工程と、ベアチップをダイレクトに実装したCOB(チップ・オン・ボード)の製造を独自に手がけようとしています。

当社が製造する高品質のLEDデバイスは当社の照明だけに搭載して外販しないというビジネスモデルで、当社だけにしか実現できない照明を作ることができます。これにより、他社との差別化を図ります。

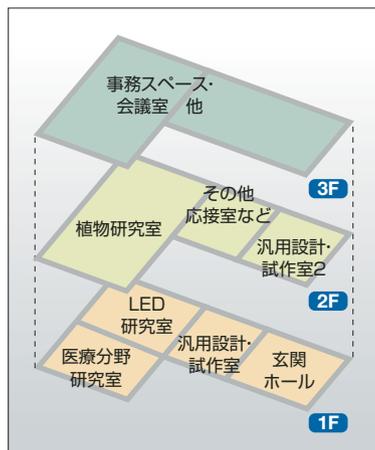
2 新規分野の事業化のスピードを上げる

新研究所「シーシーエス光技術研究所」が稼動

当社は長期的な成長に向けて新たな事業の柱を確立するために、バイオ分野、メディカル分野、商業用および民生用分野といった新規分野の事業化を目指して研究開発を進めてきました。これをさらに強化・スピードアップするために、新研究所を建設し、2008年1月15日に「シーシーエス光技術研究所」として稼動させました。

以前から取り組んでいる植物育成用LED照明の開発や藻類の量産のための照明、癒しの照明やゆらぎ照明の開発の他、今期から店舗用スポットライトの商品化開発、医療用照明の実用化に向けた開発など、積極的に新しい用途の照明の開発を進めています。

また、LEDの機能・性能を向上させて、環境にやさしい照明や用途に応じてより最適な照明をつくるために必要な新たな技術の確立を目指しています。自然光LED™を用いた照明もそのひとつです。自然光LED™の応用製品の開発は着々と進んでおり、新研究所の稼動で新規分野の事業化に弾みがつくものと期待しています。



新研究所レイアウト



仙台テストングルーム（当ビル13階）

3 国内および海外における拠点戦略

欧州でのソリューション展開が得意先とのコラボレーションに発展

当社は北米・欧州・アジアのそれぞれの地域で、現地法人の機能強化によるライティングソリューションの提案活動を積極的に推進しています。現地のエンジニアを採用してライティングの研究を行い、現地の特注品ニーズに的確に対応できる人材を養成してきました。

こうした取り組みの成果が特に欧州で現れつつあり、当社の主要取引先である大手電子・半導体検査装置メーカーにおける当社製品の採用の拡大につながりました。また、ソリューション提案を進めた結果、関係が強化され、新規のアプリケーション向けにも当社のLED照明が採用されるなど、ビジネスパートナーとしての関係を強化しています。

東北エリアの開拓に向けて仙台テストングルーム開設

前期に名古屋にテストングルームを開設したのに続き、当社は2007年11月、新たに京都、東京、名古屋に続いて国内4ヶ所目となる「仙台テストングルーム」を開設しました。従来、東北エリアは東京から一部カバーしていましたが、仙台の拠点を中心に東北エリアの顧客開拓に挑みます。実験設備および標準照明のラインアップが充実したテストングルームで、顧客の撮像したい対象物に、当社独自のライティング技術によって最適なLED照明を提案していきます。

今後さらに国内主要都市にテストングルームを開設し、その機能を順次強化して拠点網を拡充していきます。

通期の業績目標と今後の方向性

先行投資を計画通り実行し オリジナルLEDによる差別化で企業価値向上へ

第15期の通期計画は連結売上高5,800百万円、連結経常利益780百万円を見込んでいます。

上半期の設備投資額は当初計画より約1億下回りましたが、オリジナルLEDの生産立ち上げの準備は計画より早いスピードで進んでおり、第16期から量産化を行います。

第15期の下半期も引き続き、光技術研究所への測定機器の導入やオリジナルLEDの量産化に向けた生産体制の確立、新たなステイングルームの開設といった設備投資と人材への投資を実施し、将来の発展を期したいと考えております。3月の展示会「LED NEXT STAGE」を契機として、オリジナルの自然光LED™を広く世の中にアピールし、従来の工業用途だけでなく、商業用および民生用などに用途を拡大していきます。それによってCCSブランドの知名度を高め、企業価値の向上を通じて株主・投資家の皆様に貢献してまいりたいと考えております。

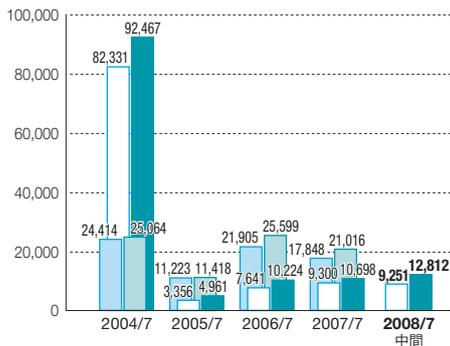
株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 米田 賢治

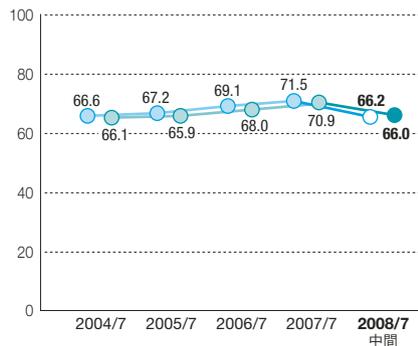
◆ 1株当たり中間(当期)純利益

(単位:円)



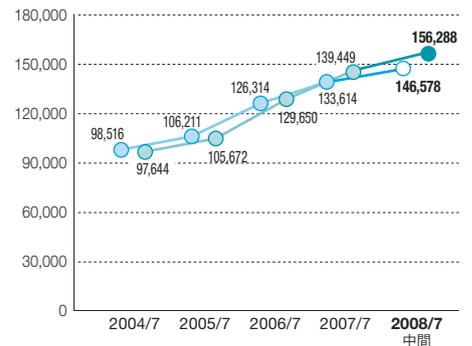
◆ 自己資本比率

(単位:%)



◆ 1株当たりの純資産

(単位:円)



■ 単体通期 □ 単体中間 ■ 連結通期 ■ 連結中間 ○ 単体通期 ○ 単体中間 ○ 連結通期 ○ 連結中間

特集

CCSの新たな挑戦 —新用途の照明の商品化に向けて オリジナルLEDの開発・生産へ



シーシーエス光技術研究所

京都市上京区室町通水上ル近衛町33番地

●延床面積:822.89m²(地上3階建)

●稼動開始:1月15日(火)

京都市眺望景観創生条例の関係により、
屋根など趣のある造りにしています。

新研究所「シーシーエス光技術研究所」が稼動 LEDの応用研究と新用途の照明開発を強化

長期的な成長に向けた新たな事業の柱を確立するために、シーシーエスは新規分野(バイオ分野・メディカル分野・商業用および民生用分野)の事業化を目指して積極的な研究開発を進めています。こうした取り組みをさらに強化し、研究開発のスピードを加速することを目的に、シーシーエス本社近く(京都市中京区)に新研究所を建設し、2008年1月15日から「シーシーエス光技術研究所」として稼動させました。



◀ 研究所1階の「ささら小庭」
— 上部にスポットライト(開発品)を設置し
太陽光の射す自然の空間を実現しました。

光技術研究所の活動内容は、LEDの応用研究と、植物育成用・医療用・商業用・民生用といった新用途のLEDの開発が主体。LEDの機能・性能を向上させ、環境にやさしい照明や新用途のLED照明の商品化を進めます。

シーシーエスは第15期(2008年7月期)を将来の事業拡大に向けた「投資の期」として新規事業への積極的な投資を進めており、この新研究所の建設は主な投資の一つです。さらにオリジナルLEDデバイスの製造に向けて、シーシーエスでも初となる

日経新聞主催「街づくり・流通ルネサンス」 特別企画展「LED Next Stage」に出展

2008年3月4日～7日に東京ビッグサイトで開催された「LED Next Stage」において、シーシーエスは「人にやさしく、環境にやさしい、新しい光の提案」というコンセプトのもと、「食」「住」「医」を支える新用途の照明を出展しました。

「食」のコーナーでは植物育成用LED照明を、「住」のコーナーでは自然光LED™照明と世界初の店舗用可変式スポットライトとゆらぎの照明を、「医」のコーナーでは研究開発の進捗を紹介。マスコミや主催者、来場者からも大好評でした。



◀2階 植物実験室▶

「LED製造工場」の体制を構築中。今期(2008年7月期)中に試験生産を開始し、来期は量産化する予定です。研究開発から設計、製造までの一貫体制によって自社で開発する照明に最適なLEDを搭載し、他社との圧倒的な差別化を図っていきます。

山口大学と共同で自然光LED™照明を開発し、 自社でLEDデバイス(オリジナルLED)の生産をスタート

シーシーエスは山口大学と共同で、色の再現性に優れた自然光LED™照明を開発し、2007年11月に、製造における検査工程で人の目によって行われる外観検査に使う「目視検査用拡大リング照明」を試作。第1回「白色LEDと固体照明」国際会議に出展しました。

この自然光LED™は、日本工業規格(JIS)で定める特定の8色を忠実に再現しているかを示す平均演色評価指数が98と、業界最高水準の演色性を実現しました。一般的に使われる白色LEDの平均演色評価指数は90以下であり、演色性の高いLED



目視検査用拡大リング照明(開発品)

に関する研究が各社で進められている中、多くの人々から注目を浴びました。

シーシーエスでは、環境にやさしく、人にやさしい照明をつくるため、自然光LED™をさらに顕微鏡用、医療用、商業用・民生用などの用途にも展開しつつあります。これまで世の中になかった、当社にしか製造できないLED照明を実現するため、自社でLEDデバイス(オリジナルLED)の開発・生産体制を確立していきます。

照明の見え方の違い



蛍光灯

蛍光灯は赤色の光が弱い
ため、青白く見える。



自然光LED™

開発品では、蛍光灯では
見えにくい赤色や紫色も
鮮明に見える。

第1回「白色LEDと固体照明」国際会議に出展

シーシーエスは2007年11月26日～30日にホテルパシフィック東京(港区高輪)で開催された照明学会主催の第1回「白色LEDと固体照明」国際会議に参加。併設展示会に自然光LED™を搭載した目視検査用拡大リング照明を参考出展しました。

この会議には各国の著名なLED研究者が来日。最新の研究成果が発表されました。シーシーエスの目視検査用拡大リング照明は参加者の注目を集め、多くの質問が寄せられました。



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当中間期 2008年1月31日現在	前中間期 2007年1月31日現在	科目	当中間期 2008年1月31日現在	前中間期 2007年1月31日現在
資産の部			負債の部		
1 流動資産	3,431,287	2,914,066	流動負債	947,338	978,677
現金及び預金	899,892	753,924	買掛金	177,438	136,527
受取手形及び売掛金	1,582,530	1,335,868	短期借入金	50,000	230,000
たな卸資産	730,478	730,600	一年以内返済予定長期借入金	203,202	118,556
繰延税金資産	77,163	67,853	未払金	211,255	184,274
その他	143,122	28,099	未払法人税等	176,719	180,749
貸倒引当金	△1,899	△2,279	賞与引当金	63,289	54,957
固定資産	1,413,660	1,179,328	その他	65,432	73,613
2 有形固定資産	1,163,749	990,226	固定負債	701,504	255,392
建物及び構築物	510,880	352,170	長期借入金	666,217	229,420
工具器具備品	151,952	133,491	退職給付引当金	22,519	22,368
土地	492,318	492,318	繰延税金負債	2,141	1,433
その他	8,598	12,245	その他	10,626	2,170
無形固定資産	107,461	123,243	3 負債合計	1,648,843	1,234,070
のれん	15,541	25,902	純資産の部		
その他	91,919	97,340	株主資本	3,205,481	2,844,700
投資その他の資産	142,450	65,859	資本金	459,450	457,950
繰延税金資産	19,657	13,873	資本剰余金	574,750	573,250
その他	122,792	52,221	利益剰余金	2,245,831	1,813,500
貸倒引当金	—	△235	自己株式	△74,550	—
資産合計	4,844,948	4,093,395	評価・換算差額等	△9,376	14,624
			為替換算調整勘定	△9,376	14,624
			純資産合計	3,196,105	2,859,324
			負債純資産合計	4,844,948	4,093,395

財務セミナー

数字で見るCCS

Point ① 流動資産

売上高の増加にともない、受取手形および売掛金が2億46百万円増加し、営業活動や借入金の増加により現金および預金が1億45百万円増加しました。その結果、5億17百万円の増加となり、総額34億31百万円となりました。



Point ② 有形固定資産

新研究所「シーシーエス光技術研究所」の建設などにより有形固定資産が1億73百万円増加、前期から稼働している生産センターやテストングルームの差入保証金の増加などにより、投資その他の資産が76百万円増加しました。その結果、総額で2億34百万円増加し、14億13百万円となりました。

Point ③ 負債

長期借入金が4億36百万円増加したことにより、4億14百万円増加し、総額で16億48百万円となりました。

中間連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	2007年8月1日から 2008年1月31日まで	2006年8月1日から 2007年1月31日まで
売上高	2,723,353	2,526,531
4 売上原価	940,334	950,867
売上総利益	1,783,018	1,575,664
販売費及び一般管理費	1,368,299	1,195,760
営業利益	414,719	379,903
営業外収益	8,452	21,317
受取利息	1,417	2,220
為替差益	—	13,239
保険積立金解約返戻金	2,752	2,410
中小企業倒産防止共済解約返戻金	—	2,680
その他	4,282	767
営業外費用	21,808	9,180
支払利息	5,707	3,989
為替差損	11,626	—
新株発行費償却	—	180
株式交付費償却	199	—
売上割引	4,275	4,645
その他	—	365
経常利益	401,363	392,039
特別利益	—	49
貸倒引当金戻入額	—	37
固定資産売却益	—	12
特別損失	2,605	354
固定資産売却損	560	—
固定資産除却損	2,044	354
税金等調整前中間純利益	398,758	391,734
法人税、住民税及び事業税	139,505	140,926
法人税等調整額	△2,508	30,955
中間純利益	261,761	219,851

Point 4 売上原価

製造方法の効率化および部品の共通化を図ることによりコストダウンを実現し、売上高に対する比率は前年同期の37.6%から34.5%に改善しました。

Point 5 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益が3億98百万円あり、減価償却費が67百万円、仕入債務が47百万円増加したものの、売上債権が1億7百万円増加し、法人税等の支払額が1億10百万円となったことにより、営業活動の結果得られた資金は2億41百万円となりました。

中間連結株主資本等変動計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	2007年8月1日から2008年1月31日まで				株主資本合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
2007年7月31日残高	458,550	573,850	2,024,910	△74,550	2,982,760	13,230	13,230	2,995,990
中間連結会計期間中の変動額								
新株の発行	900	900			1,800			1,800
剰余金の配当			△40,840		△40,840			△40,840
中間純利益			261,761		261,761			261,761
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△22,606	△22,606	△22,606
中間連結会計期間中の変動額の合計	900	900	220,921	—	222,721	△22,606	△22,606	200,114
2008年1月31日残高	459,450	574,750	2,245,831	△74,550	3,205,481	△9,376	△9,376	3,196,105

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当中間期	前中間期
	2007年8月1日から 2008年1月31日まで	2006年8月1日から 2007年1月31日まで
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	241,957	73,438
6 投資活動によるキャッシュ・フロー	△311,499	△302,641
7 財務活動によるキャッシュ・フロー	391,326	129,264
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11,654	15,583
現金及び現金同等物の増加額	310,130	△84,354
現金及び現金同等物の期首残高	560,711	810,458
現金及び現金同等物の中間期末残高	870,841	726,104

Point 6 投資活動によるキャッシュ・フロー

2007年9月に植物育成実験プラントを売却したことにより、有形固定資産売却による収入が66百万円あったものの、新研究所「シーシーエス光技術研究所」などの有形固定資産取得による支出が3億64百万円あり、投資活動の結果支出した資金は3億11百万円となりました。

Point 7 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出が69百万円となったものの、長期借入金による収入が4億50百万円あったことにより、財務活動の結果得られた資金は3億91百万円となりました。

中間個別財務諸表

中間貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科 目	当中間期 2008年1月31日現在	前中間期 2007年1月31日現在
資産の部		
流動資産	3,005,747	2,532,155
固定資産	1,524,034	1,338,314
有形固定資産	1,140,626	968,067
無形固定資産	84,102	87,945
投資その他の資産	299,305	282,302
資産合計	4,529,781	3,870,470
負債の部		
流動負債	833,056	872,904
固定負債	699,200	251,788
負債合計	1,532,257	1,124,692
純資産の部		
株主資本	2,997,524	2,745,778
資本金	459,450	457,950
資本剰余金	574,750	573,250
利益剰余金	2,037,874	1,714,578
自己株式	△74,550	—
純資産合計	2,997,524	2,745,778
負債純資産合計	4,529,781	3,870,470

中間損益計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当中間期 2007年8月1日から 2008年1月31日まで	前中間期 2006年8月1日から 2007年1月31日まで
売上高	2,408,754	2,195,930
売上原価	910,931	859,236
売上総利益	1,497,822	1,336,694
販売費及び一般管理費	1,184,482	990,493
営業利益	313,340	346,201
営業外収益	6,569	13,894
営業外費用	17,967	8,749
経常利益	301,942	351,345
特別利益	—	37
特別損失	2,605	354
税引前中間純利益	299,337	351,027
法人税、住民税及び事業税	111,197	124,904
法人税等調整額	△861	35,006
中間純利益	189,001	191,117

中間株主資本等変動計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	2007年8月1日から2008年1月31日まで											
	株主資本										純資産 合計	
	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計			
	資本金	資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金								
利益 準備金				特別償却 準備金	固定資産 圧縮積立金	別 途 積立金	繰越利益 剰余金			利益準備金 合計		
2007年7月31日残高	458,550	573,850	573,850	7,000	506	418	1,490,000	391,788	1,889,713	△74,550	2,847,563	2,847,563
中間会計期間中の変動額												
新株の発行	900	900	900							—	1,800	1,800
特別償却準備金の取崩			—		△126			126		—	—	—
固定資産圧縮積立金の取崩			—			△86		86		—	—	—
別途積立金の積立			—				300,000	△300,000		—	—	—
剰余金の配当			—					△40,840	△40,840		△40,840	△40,840
中間純利益			—					189,001	189,001		189,001	189,001
中間会計期間中の変動額合計	900	900	900	—	△126	△86	300,000	△151,625	148,161	—	149,961	149,961
2008年1月31日残高	459,450	574,750	574,750	7,000	379	331	1,790,000	240,163	2,037,874	△74,550	2,997,524	2,997,524

2008年1月31日現在

会社概要

社名	シーシーエス株式会社
本社所在地	〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地 TEL. 075-415-8280(代表) FAX. 075-415-8281(代表)
設立	1993年10月6日
資本金	459,450千円
従業員数	252名(連結) 227名(単独)
取引銀行	三菱東京UFJ銀行・みずほ銀行・京都銀行
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 画像処理用LED照明装置および制御装置の開発、製造、販売 顕微鏡光源用LED照明装置および制御装置の開発、製造、販売 植物育成用LED照射装置および制御装置の開発、製造、販売 医療用LED照明応用製品の開発、製造、販売 その他LED応用照明の開発、製造、販売
事業所	生産センター、光技術研究所、東京営業所、仙台テストングルーム、名古屋テストングルーム、上海駐在員事務所
関連会社	CCS America, Inc. RDV(S)PTE LTD CCS Europe NV

役員

代表取締役社長	米田 賢治	監査役	松室 伸二
取締役副社長	武藤 信義	監査役	入江 英典
取締役	高山 啓	監査役	安封 昂雄
取締役	河嶋 良和		
取締役	穂本 光		

株価の推移



株式の状況

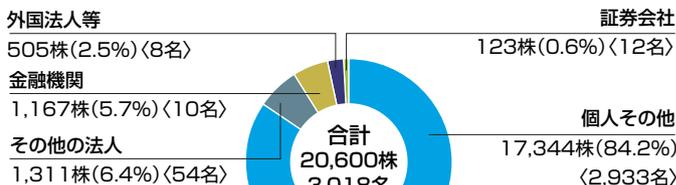
発行可能株式総数	60,000株
発行済株式の総数	20,600株
売買単位	1株
株主数	3,018名

大株主

株主名	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式数の割合
米田賢治	7,762株	38.0%
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	597株	2.9%
株式会社サン・クロレラ	506株	2.5%
シーシーエス従業員持株会	323株	1.6%
米田美鈴	250株	1.2%
プラグ	212株	1.0%
杉島凱夫	205株	1.0%
株式会社ジャフコ	200株	1.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	183株	0.9%
ザチエスマンハットバンク エヌイロボン エスエルコムバス アカウト	182株	0.9%

※ 所有株式数の割合は自己株式150株を控除して計算しております。

株主構成



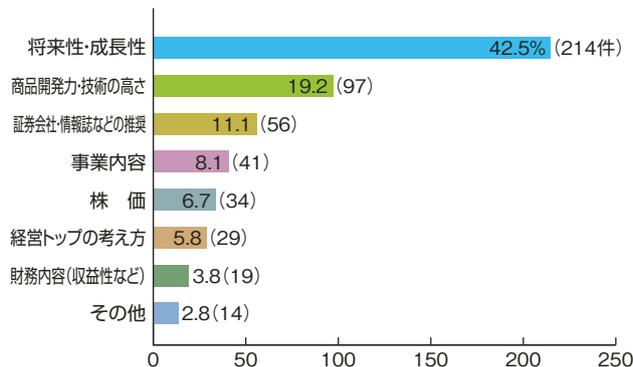
※ 左記構成には自己株式150株(0.7%)を含みません。

(単位:万円)

アンケート結果のご報告

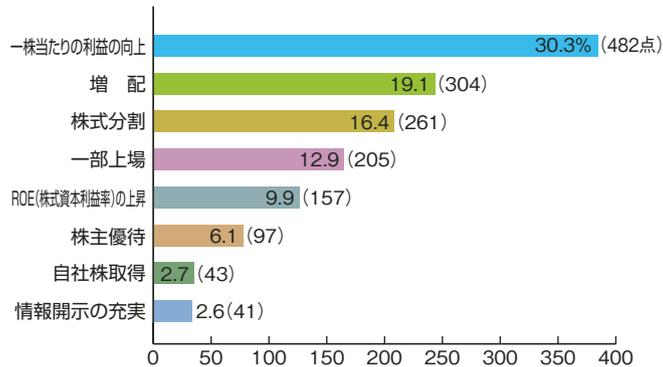
前回のアンケート集計結果をご報告いたします。297名の株主様から返信をいただきました。ご協力ありがとうございました。

Q1. 当社の株式を購入された理由(複数回答可)



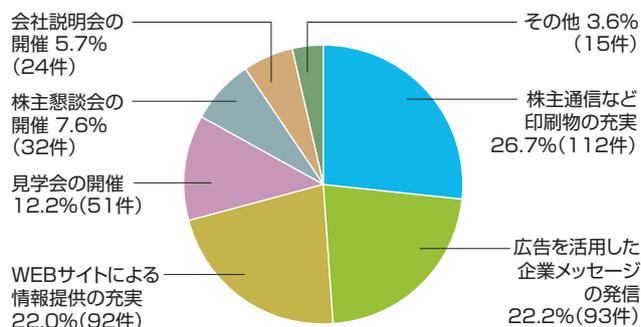
株式保有期間・男女間・世代間にかかわらず、「将来性・成長性」が最も高い結果となりました。

Q2. 今後、当社に期待すること (1位に3点、2位に2点、3位に1点を傾斜配分して算出)



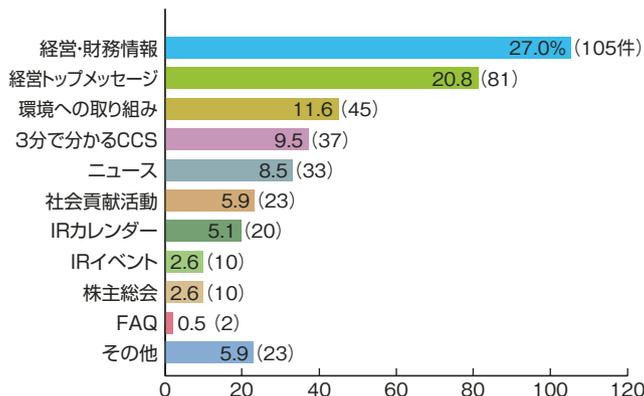
前回と同様、上位3位に「一株当たりの利益の向上」「増配」「株式分割」が入りました。「一株当たりの利益の向上」は前回の25.6%より4.7ポイント多い30.3%という結果でした。

Q3. 当社のIR活動に期待すること



今回から新たに追加させていただいた質問です。「印刷物の充実」が26.7%と最も高く、「広告を活用した企業メッセージの発信」(22.2%)、「WEBサイトによる情報提供の充実」(22.0%)と続いています。皆様のご期待に沿えるよう、IR活動の充実に努めてまいります。

Q4. 当社WEBサイトのIR情報で特に興味を持たれた回答(複数回答可)



多くの株主様に当社WEBサイトをご覧いただきましてありがとうございます。「その他」とご回答いただいた方の中には、「採用情報」ページの社員インタビューに興味を持たれた方もいらっしゃいました。

当社へのご意見・ご要望(自由記述欄)

合計144件のご意見・ご要望をいただきましてありがとうございます。

「株価へのコメント」「会社への要望、提案」「会社への期待、激励」「配当、株主優待に関するご意見」「IR、PR活動に関するご意見」など多数いただきました。

株主の皆様の貴重なご意見、ご要望を当社の経営に反映させるべく、今後も努力いたします。

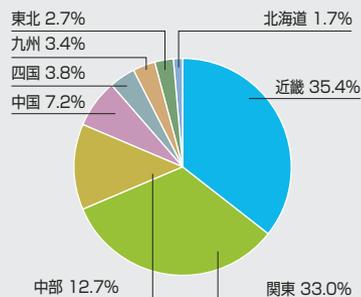
未永くご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ご回答いただいた株主様について

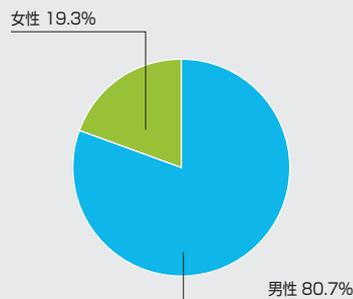
2,922名の株主の皆様(2007年7月31日現在)へアンケートはがきを送付しましたところ、297名から返信をいただきました(返送率:10.2%)。

以下は株主様の属性をグラフ化したものです。

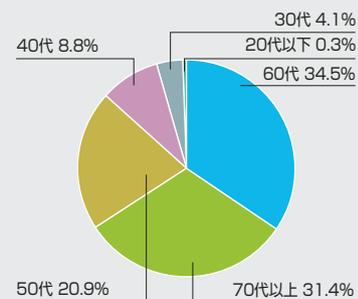
① 住まい



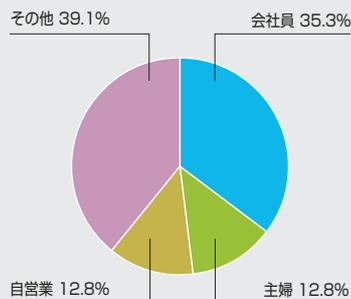
② 性別



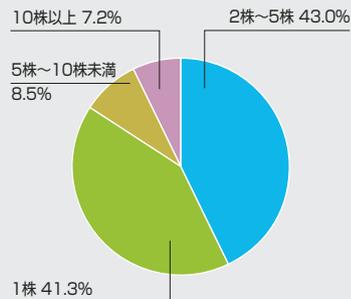
③ 年齢



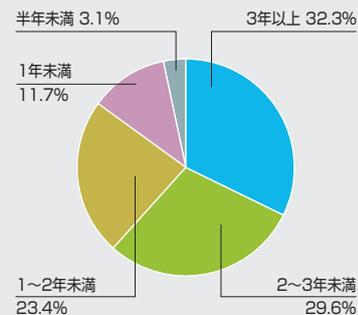
④ 職業



⑤ 株式保有数



⑥ 株式の保有期間



人にやさしく、環境にやさしい、新しい光の提案

～地球に愛と感謝を～

シーシーエスは、工業用途の画像処理分野の照明に加え、「食」「住」「医」を支える新用途の照明の提案により、低消費電力のLED照明を通じて地球温暖化防止に貢献します。

また、食糧危機問題を回避する照明や、住居にやさしい照明、医療の現場で役立つ照明などを生み出し、社会に貢献していきます。

シーシーエスはチーム・マイナス6%に参加しています。

 みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、動画とイラストでシーシーエスの事業内容や強みについて知っていただける「3分で分かるCCS」を掲載しています。「IR情報」では、財務ハイライトやIR資料、説明会の動画などをご覧ください。

ぜひご覧いただき、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。

<http://www.ccs-inc.co.jp>



トップページ

「IR情報」の入り口はこちらです。

3分で分かるCCS
入り口はこちらです。

「IR情報」ページ
最新の情報が見やすくなりました。

 R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

 PRINTED WITH
SOY INK

植物性大豆油インクを使用しています。

株主メモ

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	毎年10月
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店
公 告 方 法	電子公告 公告掲載 URL(http://www.ccs-inc.co.jp) (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載を行います。)
基 準 日	期末配当金 毎年7月31日 中間配当金の支払いを行うときは毎年1月31日
上場証券取引所	JASDAQ
証 券 コ ー ド	6669

免責条項

本報告書に掲載している将来に関する予想については、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。

 CCS Inc.
CREATIVE CUSTOMER SATISFACTION

シーシーエス株式会社

<http://www.ccs-inc.co.jp>

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
TEL:075-415-8291 FAX:075-415-7724

お問い合わせ先 E-mail:koho@ccs-inc.co.jp